

心の散歩道

278

毎月発行

※ポストに入れていただきましたことをお許しくださいませ。

今日の一日を

年が明けた元旦の朝

空も太陽も山も空気も

街の雰囲気もなにかもが

昨日までとは打って変わって

新しくなったような気がします

ですが実際には 以前から

なにひとつ変わっていないのです

変わったのは私たちの気持ち

つまり心が変わることで

あたりまえと思っていたことも

新鮮に感じられるのです

どんな日であっても

今日の一日を

最良の日としてむかえる心に

きつと明るい人生が

おとずれるいじぶじやつ



■私たちの信仰させていただいている神様は

天理王命(てんりおうのみこと)様と申し上げます。

何も無いところから人間世界を創造された神様です。

私たちは、天理王命様を親神様(おやがみさま)と

お呼びして、お慕い申しております。

■天保九年(1838)、親神様の御教えが、教祖(おやさま)

中山みき様によって、初めて伝えられました。

いじぶの味

人間の性格には良い面もありますが
同時にまた悪い面もあります。

天理教の教祖・中山みき様は

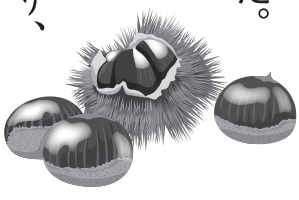
そんな人間の心の姿を「栗」にたとえて
次のようにお教えくださいました。

「栗はイガの剛いものである。

そのイガをとれば、中に皮があり、
又、渋がある。その皮なり渋をとれば、
まことに味のよい実が出て来るで。

人間も、理を聞いて、イガや
渋をとつたら、心にうまい味わいを
持つようになるのやで。」

(稿本天理教教祖伝逸話篇 七七)



神様の話を聞いて、少しずつでも

イガやシブのような性分を直していけば

人が本来持っている良い心の部分が

あらわれてくるのです。

暮らしのなかの小さなことから

心のイガをとる努力をはじめてみませんか。